



京急グループCSR 報告書 2011

KEIKYU

CSR Report 2011

京急グループ CSR報告書 2011

京浜急行電鉄株式会社 総務部
平成23年12月発行

お問い合わせ

京急ご案内センター

TEL 03-5789-8686

または
TEL 045-441-0999

受付時間 / 平日 7:30~21:00
土・日・祝日 9:00~17:00

KEIKYU
京急グループ

京急電鉄の概要

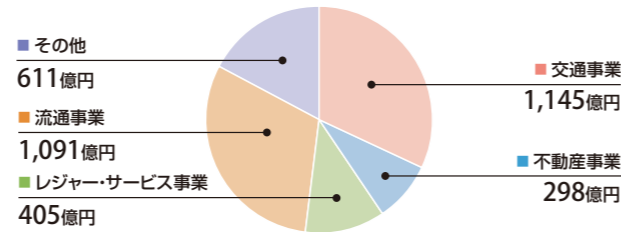
京急電鉄会社概要 (平成23年3月末日現在)

設立	昭和23年(1948年)6月1日
本社	〒108-8625 東京都港区高輪2丁目20番20号
資本金	437億円
代表者	取締役社長 石渡恒夫
従業員	1,498名
主な事業内容	交通事業、不動産事業、 レジャー・サービス事業、流通事業、 その他

グループ会社数・総従業員数 (平成23年3月末日現在)

69社 京浜急行電鉄(株)を含む	9,179名 うち京浜急行電鉄(株)1,498名
---------------------	-----------------------------

事業別営業収益 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)



京急グループの概要

事業フィールド 良質なサービス・商品の提供により、皆さまの生活に貢献していきます。

交通事業 <ul style="list-style-type: none"> 鉄道事業 乗合・貸切自動車事業(バス事業) タクシー事業 	不動産事業 <ul style="list-style-type: none"> 不動産販売業 不動産賃貸業 	レジャー・サービス事業 <ul style="list-style-type: none"> 旅行業 ホテル・旅館・飲食業 レジャー施設・ゴルフ場業 水族館・遊園地業 広告代理業
流通事業 <ul style="list-style-type: none"> 百貨店業 ストア業 ショッピングセンターの経営 物品販売業 	その他 <ul style="list-style-type: none"> 建設・土木・造園業 輸送用機器修理業 電気設備工事業 ビル管理業 情報処理業 自動車教習所業 	

編集方針

京急グループでは、ステークホルダーの皆さまにグループ各社の社会貢献活動、環境活動をお伝えするため、平成20年に初めて「CSR報告書」を発行しました。

発行にあたっては、ステークホルダーの皆さまへわかりやすく情報をご提供するよう、平成22年度にグループ各社で取り組んだ活動実績を中心に、活動の前提となる企業理念や組織体制もあわせて報告しています。また、2011年版では京急電鉄の沿線地域を3つに分けて、それぞれの地域において実施した主な取り組みをエリア別にピックアップし、あわせて活動のキーパーソンとなった社員の声も掲載しています。

- < 報告対象期間 > 平成22年4月1日～平成23年3月31日。一部の活動は、平成23年度の内容も含まれます。
- < 報告対象組織 > 京急電鉄を中心に、京急グループ69社の活動をご報告しています。
- < 発行時期 > 平成23年10月
- < 参考にしたガイドライン > ●「GRI サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」●環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

INDEX

京急電鉄および京急グループの概要	1	京急グループ 平成22年度の主なCSR活動一覧	15
トップメッセージ	3	安全・安心への取り組み	17
東日本大震災への対応について	5	環境への取り組み	21
特集 沿線価値向上	7	社会貢献の取り組み	25
●東京・川崎エリアの主な取り組み	9	CSRマネジメント体制の構築	27
●横浜エリアの主な取り組み	11		
●三浦半島エリアの主な取り組み	13		

京急沿線エリアマップ



Top Message トップメッセージ

京急グループならではのCSR活動を通じて
お客さまと地域社会の期待に応え、
元気な日本の復活に貢献していきたい

京浜急行電鉄株式会社 取締役社長
石渡 恒夫



CSRレポート2011のご挨拶にあたり、まず本年3月11日に発生した東日本大震災で犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈りいたします。また、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興が叶いますことを祈念いたしております。

今回の大震災は、わが国の国民生活と経済社会に極めて広範かつ甚大な影響を及ぼしており、私ども鉄道を中心とした事業者におきましても、さまざまな影響が出ております。交通事業では、羽田空港国際線の利用客の減少や、国内旅行の自粛などから、旅客需要が落ち込みました。また、不動産事業においても、景気低迷による購買力低下、ホテル・レジャー事業においても、利用客の減少などから厳しい状況となりました。このようななか、全社員が連携し、総力を挙げこの難局を乗り切り、元気な日本の復活に貢献してまいりたいと思います。

私たち鉄道事業者の最も基本となる社会的使命は、どのような状況にあってもお客さまの安全を最優先で確保し、輸送サービスのさ

らなる改善に努めていくことです。今回の大震災では、多くの想定を超える事態の発生により、被害が拡大し深刻化しました。お客さまの安全を守るためにも、リスク管理の前提としている「想定」を再検証することが重要です。この機会に、従来行われてきた基準なども現状に則して見直し、その妥当性を徹底的に検証する取り組みを進めてまいります。そして、さらなる快適性や利便性を追求し、京急グループが一丸となって沿線地域の価値向上に努めてまいりたいと考えています。

京急グループは、今後とも地域に根ざした企業集団として、沿線にお住まいの皆さまや地域社会のご期待に応え、我々にしか成し得ない取り組みを通じて、社会の発展に貢献してまいります。

京浜急行電鉄株式会社 社是

経営理念

- わが社は、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
- わが社は、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進をめざす
- わが社は、会社の繁栄と全員の幸福との一致を追求する

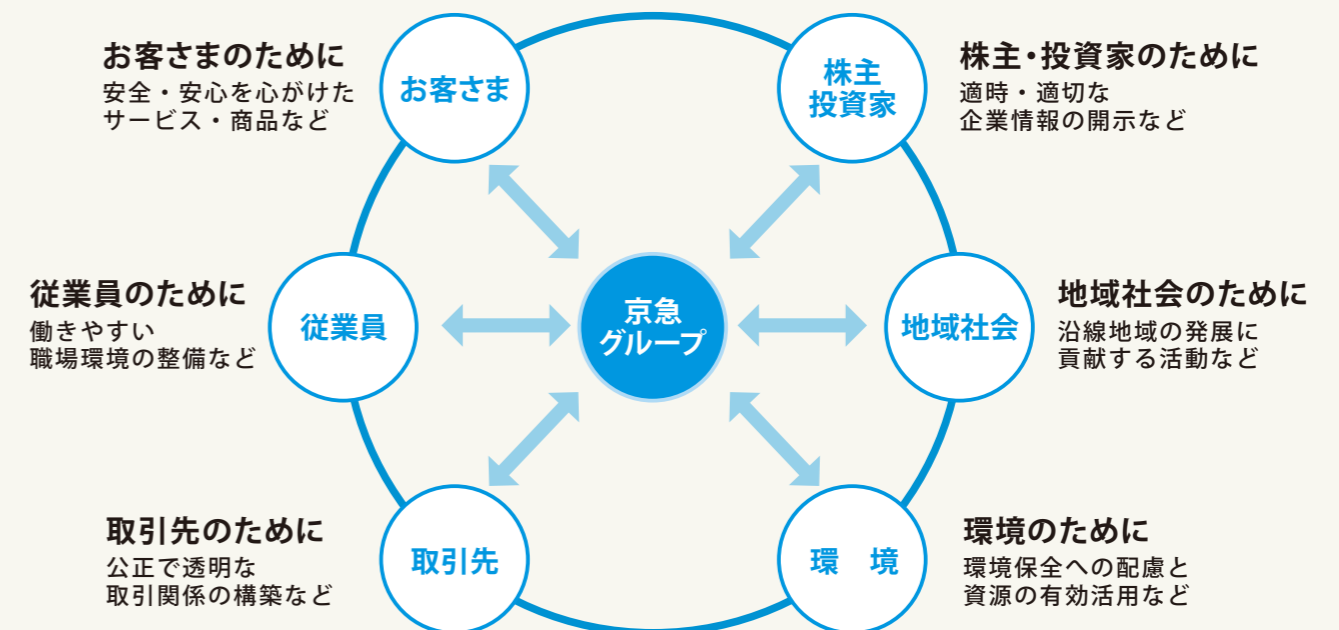
行動指針

- 感謝と誠意をもって顧客に接し、サービスに努めよう
- たえず研鑽し、進取の精神をもって、可能性に挑戦しよう
- 誇りと責任をもち、相互の信頼を深め、仕事に取り組もう

京急グループのCSR活動

京急グループは、ステークホルダーの皆さまとの信頼を築くため、積極的な情報開示に努めることはもちろん、幅広いコミュニケーションを通じて信頼関係を構築し、社会の発展につなげていきます。

京急グループとステークホルダーとの関係



東日本大震災への対応について

平成23年3月11日の東北および関東地方を襲った巨大地震、東日本大震災で被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

京急グループの対応

京急グループは、鉄道、バス、ホテル、レジャー施設など、大勢の人が集まる施設が多く、なによりもお客さまの安全を第一と考え対応いたしました。

地震発生後、京急線は全線で運転を見合わせ、安全点検を徹底し、翌日始発から運転を再開いたしました。

ホテル グランパシフィック LE DAIBAでは、帰宅困難者をホテル内で受け入れ、食事の提供を行いました。京急ストアでは、体調不良の方や歩行が困難な方に簡易ベッドと食事を提供する

など、京急グループ各施設で、できる限りの対応にあたりました。

震災後は、グループ全社員が連携して、夏季節電対応に努めたほか、都心と被災地を結ぶ高速バスの早期再開、被災者の方々を三浦半島にある京急油壺マリンパークや、ホテル京急油壺観潮荘などの温泉施設にご招待いたしました。

また、京急グループ各施設において、募金活動を実施し、お客さまや従業員から集められた義援金は被災地へ送られました。

グループ各社における復興支援活動

地震発生直後から京急グループ各社の対応と取り組んだ復旧活動、募金活動、復興支援活動の一部をご紹介します。



震災当日

帰宅困難者への配慮

東京お台場のホテル グランパシフィック LE DAIBAでは、帰宅が困難になった方々をホテル内の3フロアで受け入れ、毛布などの寝具や食事(震災当日夜と翌朝)の無償提供を行いました。また横浜駅東口地下街「PORTA」では、横浜市災害支援物資の配布に協力し、帰宅困難者に対してペットボトルの水と毛布を配りました。

column 困ったときはお互い様だから。

震災当日、品川駅前ウィング高輪EAST(京急ストア品川店)付近で、帰宅が困難になった妊娠5か月の女性が体調不良となり、トイレを借りようと店内に入ると、従業員がすぐにイスを用意し、閉店時間になるとエアコンの効いた室に案内し簡易ベッドを提供するなどの対応を行いました。

この女性の他にも、自力で歩行が困難な方やお年寄りなど計6名に同様の対応をし、食事としてお弁当も用意しました。こうした京急ストア社員の行動が、平成23年3月19日の朝日新聞で紹介されました。

震災翌日以降

都心と被災地を結ぶ高速バスの早期再開



京浜急行バスは、被災地の交通アクセス状況を改善することで、復興活動の支援となることを願い、東日本大震災の影響により平成23年3月11日から運休していた品川発盛岡南・宮古行き的高速バス(ビーム1号)を平成23年3月18日から運行再開しました。震災後、都心から三陸海岸を結ぶ高速バスとしては、最も早い運行再開でした。

さらに品川～弘前・五所川原間を結ぶ路線(ノクターン号)も平成23年3月20日から運行再開しています。

自動車免許取得中に震災を受け卒業困難になった方の受け入れ

京急グループの自動車学校3校 京急自動車学校(茅ヶ崎校、上大岡校)、鴨居自動車学校では、合宿免許などで免許取得を目指されていた途中で震災に遭い、教習の継続や卒業が困難になった方を対象に、転校措置による受け入れを行いました。

京急グループの水族館と入浴施設へ東日本大震災の被災者を無料で招待

京急油壺マリンパーク、ホテル京急油壺観潮荘・城ヶ島京急ホテル、観音崎京急ホテル(温泉施設PASSO)の各施設で、東日本大震災により関東地方に避難されている方を対象に、平成23年5月1日～31日までの1か月間、京急油壺マリンパークの入園やそれぞれのホテルの入浴施設への無料ご招待を実施しました。



また、それぞれの施設ご招待者の先着100グループ(計300グループ)に、各施設のレストランなどの利用券1,000円相当もプレゼントしました。

「京急スマイルGO!(号)」の運行

京急電鉄は、平成23年5月17日～6月30日の期間、京急沿線の施設や飲食店で働く人々の笑顔とメッセージを、電車内に掲出し「京急スマイルGO!(号)」として運行しました。

東日本大震災を機に、被災地のみでなく日本全体が自粛ムードに包まれる中、京急沿線から笑顔と元気を発信することで、地域の活性化と震災復興の応援をしたいと考えました。



「がんばろう双葉町! 京急バスツアー」に被災者の皆さまをご招待



京急ショッピングセンターでは、震災被災者の支援活動として、旧埼玉県立騎西高校に町ごと避難している福島県双葉町の皆さまを元気づけるため「がんばろう双葉町! 京急バスツアー」を企画し、町民138名の方を無料ご招待しました。このバスツアーでは、京急グループの京浜急行バスがバスを提供。埼玉県加須市から東京品川へ移動し、しながわ水族館を見学した後、ウィング高輪内の中国料理高輪で会食、吉本芸人のお笑いライブなどを楽しんでいただきました。

宮城県仙台地区の避難所に食料品などの支援物資を提供



京急電鉄、京急ストア、ユニオネックスの3社は、被災地支援として宮城県仙台地区の避難所に支援物資(即席めん類1万食)を提供しました。

平成23年3月25日に大量の支援物資を積んだトラックが、京急電鉄本社を出発。同日中に無事避難所へ届けられました。

東日本大震災の被災者支援として京急グループ各社で募金活動を実施

京急グループ各社では、さまざまな活動を通じて、東日本大震災復興支援の募金活動を実施しました。

京急電鉄と京急百貨店は、東京湾フェリー(株)および千葉県「宿泊・滞在型観光推進協議会」と協力して、平成23年4月8日に被災地支援を目的とした「南房総 花の募金活動」を実施したほか、京急油壺マリンパークは、あしかと握手会参加費を義援金として、葉山マリーナはオリジナルグッズの売上金を寄付するなどの募金活動を行いました。



京急グループ全体で集まった金額は約2,660万円(平成23年6月30日現在)になり被災地へ義援金として届けられています。

京急グループの節電の取り組み

東日本大震災の影響を受け、京急グループ各社でも節電への取り組みを実施いたしました。

駅の設備においては、日中一部時間帯に、エスカレーターの停止や駅構内の照明・案内サインなどの一部消灯を実施したほか、鉄道事業者として京急グループ社員の各家庭でも節電意識を高めることを目的として、LED電球をグループ社員に配布しました。

また、グループ施設でも節電対策を実施し、京急グループ全体で節電に努めました。

特集 — Special Issue —

沿線価値向上

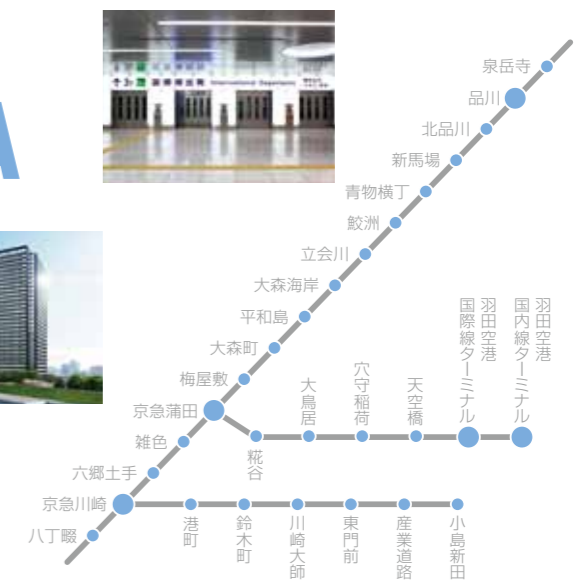
私たちの事業活動の特徴は、京急線沿線に特化したものです。そして、その沿線地域も、永く都心機能の一端を担ってきた東京・品川から、今も雄大な自然が残る三浦半島まで、さまざまに異なる表情を見せています。

今回のCSR報告書の特集は、京急線沿線地域を大きく3つのエリアに分け、平成22年度に実施された多くのCSR活動の中から、その地域ごとに特色のある活動をピックアップ。担当社員の声を交えて詳しくご紹介します。



TOKYO, KAWASAKI AREA

羽田空港の国際化から1年。昨年のCSRレポートでご紹介した数々のバリアフリー施設が、実際にお客さまに利用されています。この1年の利用状況と、東日本大震災を受け「安全・安心」のため、新たに始めた取り組みについて、羽田空港国際線ターミナル駅の駅長をご紹介します。また、都市型災害に備えた、京急グループのさまざまな取り組みについてもご紹介します。



YOKOHAMA AREA

横浜エリアには、京急百貨店やもともちユニオン、京急自動車学校など沿線にお住まいの方々に、さまざまなサービスをお届けするグループ会社が多く存在します。NPOへの支援やエコ商品のご提案、毎日の暮らしを快適にするサービスなど、生活者の立場に立ったサービスの提供を中心にして、ご紹介します。



MIURA HANTO AREA

三浦半島の魅力は、なんといっても首都圏でありながら貴重な自然が多く残されていることです。京急油壺マリンパークでは、生物多様性への取り組みに力を入れています。三浦半島における絶滅危惧種の保護・繁殖活動を中心に、かけがえのない自然環境を守ることとのバランスを取りながら、沿線地域の価値向上を図っている京急グループの取り組みをご紹介します。



TOKYO, KAWASAKI AREA

東京・川崎エリアの主な取り組み

東京・川崎地区では、羽田空港の国際化を機に、京急グループの総力を結集して、日本の空の玄関口にふさわしい街づくりや地域活性化へのお手伝いをしています。また懸念される都市型災害に備えた「安全・安心」へのさまざまな取り組みを展開しています。



品川駅周辺

京急電鉄 京急イーエックスイン

客室照明を使って地域活性化をサポート

品川駅高輪口駅前のシンボルの存在であった「ホテルパンフィック東京」は、平成22年9月をもって閉館しましたが、同年10月21日の羽田空港国際線ターミナル駅の開業に合わせて、約1か月間にわたり客室照明を使った記念メッセージ「羽田へKEIKYU」の点灯を行いました。羽田空港の国際化にともない、海外からのお客さまや海外へ出発される方の往来が増えることが予想される品川エリアのPRをサポートし、地域活性化の一助になりたいという思いから実施しました。さらに、平成23年2月28日からの1週間は「火の用心」の文字を点灯し、地域の防災運動に協力しました。
※旧ホテルパンフィック東京は、平成23年4月29日から複合施設「SHINAGAWA GOOS」に生まれ変わりました。



京急蒲田駅周辺

京急グループ

京急蒲田駅周辺 災害時滞留者対策訓練

平成22年12月、東京都と大田区が実施した災害時滞留者対策訓練に、京急グループ3社が参加しました。これは、大地震発生を想定し、京急蒲田駅とその周辺における帰宅困難者の混乱防止に備えた地域防災活動で、滞留者の避難誘導や救援物資提供などの訓練を行いました。平成23年度以降も、震災の経験を踏まえ、さらに高い防災意識をもって参加していきます。



穴守稲荷駅周辺

京急グループ

「大田スポーツ GOMI拾い大会」に参加

平成23年2月に行われた「大田スポーツGOMI拾い大会」は、制限時間内に拾ったゴミの質と量で順位を競い、環境保全と地域貢献を同時に実現できるイベントです。京急グループから20名の競技者が参加したほか、入賞者への賞品を提供しました。京急グループでは、こうしたイベントだけでなく、今後も積極的に地域美化活動に取り組んでいきます。



港町駅周辺

京急電鉄 京急不動産

災害に強いタワーマンションの開発

大師線港町駅前に完成予定のタワーマンション「リヴァリエ」は、水害に強いスーパー堤防に守られた地に建ち、最新の制振システムを取り入れた、地震や災害時にも安心の住まいです。さらに最新のセキュリティシステムも充実。太陽光発電、屋上緑化、EV（電気自動車）用の充電設備設置、カーシェアリングの導入など、環境への配慮も随所に施されています。京急グループは、沿線に住まう皆さまが毎日を快適に過ごせるよう「安全・安心」で「環境にやさしい」街づくりを進めています。



社員インタビュー 1 TOKYO, KAWASAKI AREA

京急電鉄

開業1年を迎える 羽田空港国際線ターミナル駅の今

平成22年10月21日、羽田空港の国際化にともない開業した「羽田空港国際線ターミナル駅」。この1年を振り返り、昨年のCSRレポートでもご紹介した施設がお客さまに安全・安心・快適に利用されているのか、安部駅長にお話を伺いました。

(平成23年8月11日 羽田空港国際線ターミナル駅にて)



(株)京急ステーションサービス
羽田空港国際線ターミナル駅 駅長
安部 淳

東日本大震災においても プラスに機能したバリアフリー設計

私は、平成23年3月16日付で羽田空港国際線ターミナル駅の駅長に就任しました。震災直後の異動のため、就任してすぐに計画停電への対応、節電計画の作成などに追われました。

3月に節電計画への対策として、エスカレーターの運行をすべて一時中止し、節電が求められている9月まで継続させています。この間、エレベーターですべて対応しなければならないということで、お客さまが集中してしまう時間帯もありましたが、複数の車いすのお客さまがいらっしゃっても乗り降りしやすく、カートのまま乗降できる大きなエレベーターを上り・下りホームともに3基以上設置したバリアフリー設計が、非常に機能しました。震災を機に、私自身この駅のバリアフリー設計のすごさを改めて思い知らされた気がします。



施設頼みではなく、 駅職員による「安全・安心」への取り組みも充実

昨年のCSR報告書では、開業前だったこともあり当駅の「安全・安心」へのこだわりについて、施設におけるハード面の工夫しかご紹介できませんでした。現在では駅職員によるソフト面の取り組みも充実しています。

第一に、駅職員からの自主的な提案を受け、「自衛消防隊」を結成しました。秋に羽田地区で行われる自衛消防隊の審査会に向けて訓練を進めています。第二に、東日本大震災を受けて、防災計画と防災訓練の見直しを行いました。特に気を配ったのが津波に対する対策で、震災以降は津波も大きなポイントになってきたので、地上面の広いスペースのみを避難場所とするのではなく、建物の3階以上の避難場所を確保するなどの変更を行いました。

これからも、お客さまのニーズを把握し、 お客さまの視点で質の高いサービスの充実

まもなく開業1年を迎えるということで、さまざまなお客さまの声も集まっています。駅の施設に対しては、カートを押したまま利用できる広い改札やエレベーター、バリアフリー設計のトイレなどが好評をいただいています。

また、京急ツーリストインフォメーションセンターで最も多いお問い合わせは、都心に行く際の乗り換えについてであることもわかってきました。日本の空の玄関口にある駅として、空港に着いた後の行動がスムーズにいくよう情報をご提供すること、それが国際線ターミナル駅のインフォメーションの役割として期待されています。これからも、お客さまの視点をもち、お客さまが何を求めているかをすぐに察して対応できるよう、駅職員全員でサービスの充実に取り組んでまいります。



YOKOHAMA AREA

横浜エリアの主な取り組み

横浜地区では、京急沿線にお住まいの皆さまに毎日を気持ちよく過ごしていただくため、さまざまな社会貢献活動、環境活動を推進しています。毎日のお買い物や家族で過ごす時間を、快適に過ごしていただくため、さまざまな取り組みに努めています。

横浜駅周辺

ユニオネックス

オリジナルエコバッグによるレジ袋削減

もともちユニオンでは、今日のように「エコ」意識が当たり前ではなかった1960年代から、他社に先駆けてエコバッグの販売を開始しました。実用性のみでなく、デザイン的にも優れたオリジナルのエコバッグは、周辺地域にお住まいの皆さまからも高く評価されています。

お客さまが、日常生活で常にエコを意識するようになった現在では、もともちユニオンオリジナルエコバッグの販売とともに、お買い物時のマイバッグ運動を展開。少しでもレジ袋を削減して、環境負荷低減に貢献していきたいと考えています。



横浜駅周辺

京急電鉄

京急アートギャラリー号

京急電鉄では、車両1編成をすべて東京や神奈川県内の美術館・博物館の情報ポスターでジャックする「京急アートギャラリー号」を運行しました。平成22年度は3月16日から4月15日までの1か月間にわたって、第4弾となるアートギャラリー号を運行しました。

まるで美術館のようにアートに囲まれた車内は、お客さまからも「ゆったりと落ち着いた気持ちで電車に乗っていただける」と好評をいただきました。

井土ヶ谷駅・上大岡駅・金沢文庫駅周辺

京急サービス

京急キッズランド

京急サービスが展開する保育園「京急キッズランド」では、保育中のおさまの様子を保護者の方がリアルタイムで確認できる画像配信サービスを開始しました。

指定された時間帯にパソコンや携帯電話からアクセスすると、各保育園に4~6台設置されたカメラの映像を閲覧することができます。アクセスするにはパスワードが必要でありセキュリティも充実。安心しておさまを預けられるよう、さまざまな配慮を行っています。



上大岡駅周辺

京急自動車学校

「犯罪被害者支援賛助自動販売機」

京急自動車学校では、平成22年12月から、上大岡校と茅ヶ崎校に設置している飲料の自動販売機を「犯罪被害者支援賛助自動販売機」に変更しました。これはNPO法人神奈川被害者支援センターを通じて、自動販売機の売り上げの一部を犯罪被害者への支援活動に寄付するという試みです。神奈川県内の企業としては、京急自動車学校が初めてこの販売機を導入しました。

社員インタビュー ② YOKOHAMA AREA

京急百貨店

地球温暖化防止の一助とするため 外商車にEV(電気自動車)を導入

京急百貨店では、平成23年2月から、営業用の外商車に、排気ガスを一切出さない最新のエコカーである電気自動車(日産リーフ)3台を導入しました。新たな外商車に電気自動車を選んだ動機や背景、さらに導入後の効果について京急百貨店 外商部の齊藤さんにお話を伺いました。

(平成23年8月11日 京急百貨店にて)



京急百貨店
営業本部 外商部
齊藤 誠

お客さまにエコ商品をご提案する百貨店として 自らがまず環境にやさしい企業でなければ

京急百貨店としては、今回のEV(電気自動車)が初めてのエコカー導入になります。エコマーク付き商品や「カーボンオフセット」の仕組みを利用した「楽eco」商品など、さまざまなエコ商品をお客さまにご提案している当社としては、まず自らが環境にやさしい企業であらねばという思いが強く、外商車をエコカーにするという選択も頭の中にもありました。

そんな折、同じ横浜市に本社を置かれている日産自動車さんから、EV(電気自動車)の「リーフ」が発売されました。さらに神奈川県や横浜市は、エコカー購入の助成制度が充実していること、当社としても外商車の購入時期であることなど、さまざまなタイミングが合いEV3台の導入を決めました。法人として「リーフ」を購入予約したのは、全国でも当社が最初だったと聞いています。



環境意識の高いお客さま(企業さま)が多いため、EVが商談の際の話題づくりにも活躍

私たちは「外商部」ですので、車で地元の各企業を訪問させていただきますが、実際、環境意識の高いお客さま(企業さま)が多いです。例えば総務など購買を担当されている方から「EVの話を開かせてくれる?」と声をかけられたりしますし、打合せ場所が駐車場に近い場合には、商談の際の話題になることも多いです。

また、環境配慮とは関係ありませんが、3月に東日本大震災が発生した直後、首都圏でもガソリン不足になりましたが、その際は本当に重宝しました。ガソリン車はガソリン不足の間まったく使えませんでしたから、EVに助けられることが多かったです。

京急グループとしてEVの普及とインフラの整備に貢献していきたい

一方で、EVに乗っているとインフラ整備の不足を実感することもあります。横須賀市周辺の京急グループの施設ですでにインフラ導入が始まっていますが、これからは、EVの普及に合わせて百貨店のお客さま用駐車場などにも、EV用の急速充電器を整備するなどの対応を検討しないとイケないと考えています。

ぜひ、京急グループ全体にEV導入を含めたCO2削減活動がさらに広まってくれたらと思います。EVの比率が高まるほど、CO2削減の効果も大きくなると思います。



MIURA HANTO AREA

三浦半島エリアの主な取り組み

三浦半島周辺では、貴重な自然環境を大切に守っていく活動を続けるとともに、首都圏有数の観光地としての魅力を社会に発信しています。環境配慮と地域活性化のバランスのとれた取り組みを推進しています。

新逗子駅周辺

京急電鉄

佐島の丘温水プールを横須賀市に寄付

京急電鉄が開発を進める「湘南佐島なぎさの丘」分譲地内に、平成23年4月オープンした「佐島の丘温水プール」を横須賀市に寄付しました。

「佐島の丘温水プール」は、6コースからなる25メートルのメインプールのほか、家族で楽しめる幼児用プールも設けられ、室内プールのため季節を問わず周辺地域のどなたでも気軽に利用できる施設となっています。

横須賀中央駅周辺

京急グループ

EV(電気自動車)用充電器の設置

京急グループでは、京急百貨店の外商車や京急中央交通のタクシーにEV(電気自動車)を導入するなど、環境負荷低減の取り組みとしてEVの活用を進めています。さらに自治体としてEVの普及促進を図っている横須賀市の施策に賛同し、横須賀市内にある京急グループ施設に、EV用の充電器を設置しました。設置場所は、観音崎京急ホテル、同ホテル内の温浴施設SPASSO、京急ファーム湘南池上店、ヨコサンハイランド店の各駐車場で、当面は無料[※]で利用できるようになっています。

※将来的に有料化される場合もあります。

馬堀海岸駅周辺

観音崎京急ホテル

観音崎イルミネーションを点灯

観音崎京急ホテルと横須賀美術館がコラボレーションし、クリスマスに合わせて「観音崎イルミネーション」を実施しました。海の目の前という立地条件を活かして、約6000個の白色LEDを点灯させることで、さながら「夜空の星を映す輝く波」のような光景をお客さまや周辺地域の方々に楽しんでいただきました。

三崎口駅周辺

京急油壺マリンパーク

新展示施設「かわうその森」がオープン

京急油壺マリンパークに、平成22年7月オープンした新施設「かわうその森」では、神奈川県に生息する希少生物の保護・繁殖に力を入れています。こうした取り組みを通じて、京急油壺マリンパークが三浦半島周辺の絶滅危惧種の保護・繁殖の拠点となり、地域の活性化と自然保護に役立っていきたく考えています。



社員インタビュー ③ MIURA HANTO AREA

京急油壺マリンパーク

三浦半島の貴重な自然を守るため 地域の水族館としてできること

京急油壺マリンパークでは、平成20年から三浦半島に生息する絶滅危惧種や希少種と言われる生き物の保護・繁殖に力を入れています。水族館として地域のために何ができるか、何をしたいと考えているのか、京急油壺マリンパーク 飼育部の中井さんにお話を伺いました。

(平成23年8月9日 京急油壺マリンパークにて)



京急油壺マリンパーク
飼育部 次長
中井 武

「みうら自然館」から「かわうその森」へ 受け継がれた繁殖保護活動への想い

絶滅危惧種の保護・繁殖に力を入れるきっかけは、平成20年マリンパーク内に地元の希少種を展示する施設「みうら自然館」をつくったことです。三浦半島には、まだ多くの自然が残っているように見える陰で、生き物たちは見た目以上に減っているという現状がありました。神奈川県は独自の「レッドデータブック」を発行していて、マリンパークでは、レッドデータブックを基に三浦半島で絶滅危惧種に指定されている生き物を、繁殖も含めて種の保存に貢献したいと考えています。

みうら自然館で行ってきた希少種の保護繁殖活動は、平成22年7月にオープンした「かわうその森」に受け継がれています。現在「かわうその森」では絶滅危惧種だけで13種類飼育しており、そのうちの8種類は繁殖にも成功しています。今、最優先の課題と考えているのは、希少生物の生息場所を調査し、保護した個体の繁殖技術を高めることです。



三浦半島固有の生態系を守るため 保護・繁殖を目的とした動物たちのDNAを調査

保護・繁殖を行なう生物に関しては、隣接する東京大学の「海洋基礎生物研究推進センター」と共同研究で、DNAを調査しています。生物は同じ種類でも、DNAからその水系や地域固有の遺伝情報を知ることが出来ます。マリンパークでは三浦半島に生息する生物固有のDNAを残すため種の保存を目的にDNA調査を行い保護・繁殖活動に努めています。

地域に根差した、 地域の人達と一緒に取り組める活動を

三浦半島の自然を守るために私たちが何でもできると考えている訳ではありません。一企業が行うにはやはり限界があります。水族館が地域に貢献できることは、生き物の保護・繁殖を通じた教育普及活動を行うことと考えています。この考えに基づいて今行っているのが「三浦メダカの里親制度」です(⇒P.24参照)。これは地元の小学校に里親になってもらい、マリンパークで繁殖した三浦メダカを各小学校で飼育してもらおう制度で、一人でも多くの子どもたちが、三浦半島に生息している生き物のことを好きになってくれればと想い、始めたものです。この里親制度も、マリンパーク内の「かわうその森」も、生き物を観察する場、生態を勉強する場として地域の方々に活用していただき、その後、実際の川などへ生き物を観察に向くきっかけになればと願っています。出向けば生き物の生態など自然の大切さがより理解していただけると思います。



京急グループ

平成22年度の主なCSR活動一覧

平成22年度、京急グループ各社で取り組まれた主なCSR活動を一覧形式でご紹介します。

取り組みテーマ	主要実施項目	具体的な実施事項	会社名	ページ	
安全・安心への取り組み	鉄道事業の取り組み	鉄道事故復旧訓練	・万一の重大事故発生に対処することを目的に、毎年秋に警察・消防の協力のもと実施しています	京急電鉄	P18
		京急蒲田駅付近連続立体交差事業	・平和島駅～六郷土手駅、京急蒲田駅～大鳥居駅までの連続立体交差化工事を進めています	京急電鉄	P18
		ATS（自動列車停止装置）の高機能化	・高機能ATSは、より細かい速度チェックを行い、信号区間内を連続的に制御でき、順次工事を進めています	京急電鉄	P18
		大師線連続立体交差事業	・東門前駅付近～小島新田駅付近の連続立体交差化（地下化）工事を進めています	京急電鉄	P18
		高架橋・橋梁の耐震補強	・高架橋の安全性を向上させる耐震補強工事で現在の進捗率は94%です	京急電鉄	P18
		トンネル補修工事	・トンネル内の補修工事を継続的に進めています	京急電鉄	P18
		法面防護工事	・かけ崩れ災害を防止するため、落石防護柵・吹き付け補強・切崩し工事を進めています	京急電鉄	P18
		防犯カメラの増設	・駅構内への防犯カメラの増設を進めています	京急電鉄	P19
		発車案内装置	・駅構内の4か国語表記の発車案内装置を今後も更新予定です	京急電鉄	P19
		京急ファミリー鉄道フェスタ	・一般のお客さまに鉄道事業を理解していただくために、毎年一回実施しています	京急電鉄	P19
多機能トイレの新設	・平成23年6月で68駅に設置しており、今後も各駅のトイレ改修を積極的に行います	京急電鉄	P19		
バス事業の取り組み	安全に対する基本方針	安全に対する基本方針	・「輸送の安全確保が最も重要である」という認識を全従業員が自覚することが大切と考えます	京浜急行バスグループ	P19
		ドライブレコーダーの導入	・最新のドライブレコーダーを順次導入し、安全運転の改善に活用しています	京浜急行バスグループ	P19
		バスジャックなどの緊急事態への対応	・突発的緊急事態発生時における対処能力の向上と連携強化を目的に、警察・消防の協力のもと実施しています	京浜急行バスグループ	P19
その他の取り組み	東日本大震災を受けての防災訓練実施	・震災時の経験・反省を踏まえた避難訓練を実施しました	ホテルグランパシフィック	P20	
	無事故優秀事業者として表彰を受ける	・安全運転意識の高揚と交通事故防止に尽力したことにより表彰されました	京急タクシーグループ	P20	
	防災訓練・自衛消防隊	・自衛消防隊を組織したうえで、訓練を実施し、防火・防災に努めています	京急グループ	P20	
	食の安全・安心 食品衛生研修会を実施	・食中毒防止のための研修会を実施し、食の安全確保に取り組んでいます	京急グループ	P20	
環境マネジメント	京急グループ環境基本方針	・事業・社会貢献活動を通じて地球環境の保全、環境負荷の低減に努めています	京急グループ	P21	
	行動指針	・京急グループとしての行動指針を常に守りながら行動します	京急グループ	P21	
	モーダルシフトへの取り組み	・環境にやさしい鉄道・バスの公共交通機関をご利用していただく取り組みを進めています	京急電鉄	P22	
鉄道事業の取り組み	弱冷房車の増設	・夏季節電対応として、弱冷房車を大幅に増加し、CO ₂ 削減にも貢献しています	京急電鉄	P22	

取り組みテーマ	主要実施項目	具体的な実施事項	会社名	ページ	
環境への取り組み	鉄道事業の取り組み	駅構内の案内表示板をLED化	・電力の消費量が少ないLEDを採用し、駅構内の表示板のLED化を進めています	京急電鉄	P22
		省エネルギー車両	・「電力回生ブレーキ」を備えた車両を採用し、電力量の節減に努めています	京急電鉄	P22
		リサイクル可能な素材の積極的採用	・環境負荷を軽減する車両の新造にあたり、リサイクル製品の積極的採用をしています	京急電鉄	P22
	バス事業の取り組み	ネットワークサービスの拡大	・全国各地へのネットワークの拡大を進め、羽田空港国際線ターミナルへの乗り入れ、今後、運行拡大も進めています	京浜急行バスグループ	P23
		省エネ車両・低公害車両の導入	・環境負荷の少ない各種車両の導入を進めています	京浜急行バスグループ	P23
		省エネ運転の推進	・アイドリングストップの徹底など、省エネ運転の推進に取り組んでいます	京浜急行バスグループ	P23
	その他の取り組み	EV（電気自動車）タクシーを運行	・EVタクシー導入モデル事業に参画し、EVタクシーを3台導入しました	京急中央交通	P24
		絶滅危惧種ニホンアカガエル観察会	・神奈川県三浦市産ニホンアカガエルの観察会と放流式を開催しました	京急油壺マリンパーク	P24
		三浦メダカの里親制度	・地元の小学校へ出向き、三浦半島に生息する三浦メダカの保護・繁殖をアドバイスしています	京急油壺マリンパーク	P24
		「CO ₂ 吸収証書」の交付	・京急百貨店の森林保護活動により「CO ₂ 吸収証書」が交付されました	京急百貨店	P24
京急あきたフェア2010を開催		・自然豊かな秋田の魅力を紹介し、京急グループ各施設でも、催し物を展開しました	京急グループ	P24	
ノルエコ「京急環境電車」の運行		・環境啓発として、京急グループの環境への取り組みを車内で紹介しました	京急グループ	P24	
社会貢献の取り組み	お客さまとのコミュニケーション	京急ご案内センター	・京急グループのサービスや施設に関するお問合せやご意見、ご要望を受け付けています	京急電鉄	P25
		お客さまの声をサービスに活かす取り組み	・お客さまの声を、サービス改善に活かす取り組みを行っています	京急電鉄	P25
	株主・投資家とのコミュニケーション	さまざまなIR活動	・わかりやすい株主総会、投資家向けの会社説明会、株主向けのグループ施設見学会を開催しています	京急電鉄	P25
	従業員とのコミュニケーション	人材の多様性の尊重	・地域社会との協調・連携に努めるよう、障がい者の雇用促進、女性従業員の就業環境の整備など雇用環境の整備に力を入れています	京急電鉄	P26
		安全で健全な職場環境の整備	・京急グループ安全大会を開催し、従業員の安全・衛生意識の啓発に努めています。また、定期健康診断時に成人病検診もあわせて実施し、健康管理に努めています	京急電鉄	P26
	社会とのコミュニケーション	地元小学生による「龍馬絵画展」	・立会川駅構内で「地元小学生による龍馬絵画展」を開催しました	京急電鉄	P26
		京急蒲田駅駅長が小児病棟を訪問	・地域貢献活動の一環として、小児病棟を訪問し、病気と闘う子どもたちに笑顔を届けました	京急電鉄	P26
		「アートによるまちの再生へ」高架下を活用し、地域再生をサポート	・日ノ出町駅から黄金町駅のエリアでは地域と連携してアートの共存による地域再生に取り組んでいます	京急電鉄	P26
三浦国際市民マラソンをサポート		・京急グループ各社が、さまざまなサポート活動を行いました	京急電鉄	P26	



安全・安心への取り組み

利用者の気持ちで、「安全・安心」のために今、成すべきことを。

鉄道やバス、タクシーなど、京急グループの公共交通を利用されるお客さまがいつでも安心して利用できるよう、安全の確保について常に最大限の配慮を行っています。これからも京急グループは、沿線ぐるみ、街ぐるみで「安全・安心」に積極的に取り組んでまいります。

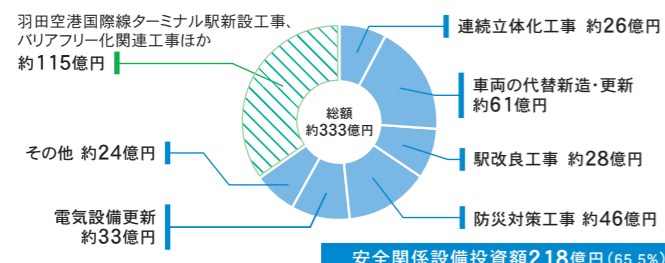
鉄道事業の取り組み

▶ 安全・安心へのマネジメント体制

安全方針

- ① 安全最優先の意識の徹底を図るとともに、鉄道安全管理規程に基づき、安全確保に全力を傾ける。
- ② 法令順守の理念の実現に向け、コンプライアンス規程に基づき、コンプライアンス体制の構築・強化を図る。

平成22年度 鉄道事業設備投資総額(実績)



平成22年度 鉄道本部 安全重点施策

【目標】

- 全員が協力して輸送の安全の確保に努める。
- 安全は与えられるものではなく、一人一人が創るもの。
- ・ 有責事故0件を継続する。
- ルールを順守することは、安全確保の根幹であり、社会的責務である。
- 輸送の安全に関する法令および関連する規程の教育を計画的に策定・実施し、理解を深めるとともに、認識度の把握に努める。
- 明るい職場作りに向けて、教育とコミュニケーションを充実させる。

【取組計画】

- バリアフリー設備の一層の充実による快適性の向上
- 京急蒲田駅連続立体交差事業の円滑な進捗(平成22年5月の上り線高架化、平成22年度中の環状8号線交差部の仮下り線高架化)
- 国際ターミナル駅開業に向けた確実な準備
- 駅における安全対策の一層の充実
- 橋梁改良、トンネル補修、法面防護などの耐震や防災などの安全対策工事の推進
- テロを始めとする警備、警戒の強化
- ヒヤリハット情報を活用した取り組み、およびそのフォローアップの充実
- 将来の安全性向上を見据えた中長期計画の検討
- 沿線価値の増大による鉄道の利用促進

鉄道事故復旧訓練

万一の重大事故発生に対処することを目的として、毎年秋に鉄道事故復旧訓練を行っています。29回目となる平成22年の訓練は、警察・消防のご協力のもと、動作中の踏切内に進入した自動車と列車が衝突し脱線するという想定で実施しました。昨年に引き続き、およそ700名が参加。このうち、100名は一般公募のうえ、抽選で選ばれたお客さまです。



京急蒲田駅付近連続立体交差事業

現在、京急蒲田駅付近で行っているこの事業は、本線の平和島駅から六郷土手駅までの延長約4.7km、空港線の京急蒲田駅から大鳥居駅までの延長約1.3kmの合計約6.0kmを連続的に立体交差化し、環状8号線および国道15号(第一京浜)を含む28か所の踏切道を廃止することで、踏切事故や交通渋滞を解消し、安全性の向上や道路の円滑化を図ります。

平成13年12月から工事着手しており、平成22年5月には全事業区間の上り本線・空港線の高架切替を実施し、踏切道の遮断時間が約4割減少。これによって国道15号の渋滞長が約6割減少されました。さらに平成22年9月、環状8号線踏切付近の下り本線を高架化し、環状8号線を含む4か所の踏切がなくなりました。事業完成に向けて現在鋭意工事を進めています。



大師線連続立体交差事業

川崎市の都市計画事業として行われている大師線連続立体交差事業は、大師線約5kmのほぼ全線を地下化し、国道409号を含む14か所の踏切を廃止することにより、踏切事故や交通渋滞を解消し、安全性向上や道路の円滑化を図ります。

現在、事業の効果を早期に発揮するため、東門前駅付近～小島新田駅間の約980mを段階的整備区間として地下化工事に平成18年9月から着手しており、この工事により産業道路第1踏切道を含む3か所の踏切道がなくなります。

平成23年度は、平成22年度に引き続き、工事桁架設・掘削工事を進めるほか、一部躯体工事にも着手する予定で、事業完成に向けて鋭意工事を進めています。

高架橋・橋梁の耐震補強

平成22年度末現在、高架橋の橋脚部などにおける耐震補強工事の進捗率は94%となっています。

平成23年度も、地震発生時の高架橋の安全を向上させるため、引き続き横浜駅～南太田駅間の耐震補強工事の完了に向け鋭意工事を進めています。



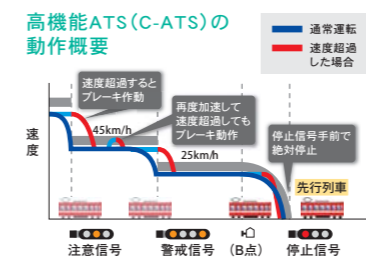
横浜駅～南太田駅間

ATS(自動列車停止装置)の高機能化

高機能ATSは、より細かい速度チェックを行うとともに、信号区間内を連続的に制御することが可能となりました。

停止信号の手前で確実に列車を停止させる「絶対停止パターン」や、カーブでの速度オーバー時に自動でブレーキがかかる「曲線減速パターン」など、過去の鉄道事故の教訓が活かされた機能が備わっており、従来型に比べ安全性が格段に向上しています。

さらに、万が一、駅に停車すべき列車が駅を通過してしまった場合に、事故を防ぐ新機能を平成23年6月から導入しました。これは、間近にある遮断していない踏切道に列車が侵入しないよう、踏切の手前までに停車させるか、あるいは遮断後に踏切道を通り過ぎようとする列車が通過するよう減速させるシステムで、ATS車上装置への機能追加および本線・久里浜線の地上装置を構築したものです。他の線区においても平成24年6月導入予定で工事を進めています。



トンネル補修工事

将来にわたり列車の安全運行を確保するため、トンネルの点検を定期的に行っているほか、平成22年度は、泉岳寺駅～品川駅間、戸部駅～日ノ出町駅間、京急田浦駅～安針塚駅間、逸見駅～汐入駅で補修工事(覆工背面空隙注入工、断面補修工、漏水防止工)を実施しています。平成23年度以降も継続的に工事を進めています。



法面防護工事

がけ崩れなどの災害を未然に防止するための法面防護工事(落石防護柵・吹き付けなどの補強・切崩し)を推進し、平成22年度は、弘明寺駅構内、北久里浜駅～京急久里浜駅間、YRP野比駅～京急長沢駅間などで実施しました。

平成23年度も引き続き杉田駅～京急富岡駅、六浦駅～神武寺駅間などにおいて防護工事を進めています。



弘明寺駅構内

鉄道事業の取り組み

防犯カメラの増設

昨年に続き、駅構内への防犯カメラの増設を進めています。平成22年度は、117台増設し、平成23年9月末時点で574台設置しています。今後も増設を予定しており、平成23年度末には全駅設置数が582台となる予定です。

また、平成22年10月に開業した「羽田空港国際線ターミナル駅」に設置した一部の防犯カメラには、カートなどの動かない放置物を検出する「放置物探知機能」を導入しました。ホーム上にカートなどの放置物があった場合には、防犯カメラの映像からそれを検出し、駅務室のモニターへ表示するほか、音声で通知されます。



発車案内装置の設置

発車案内は、京急線をご利用いただくお客さまに対してわかりやすいものであることが重要です。平成22年度末現在で品川駅・羽田空港国際線ターミナル駅に4か国語表記の発車案内装置を設置しています。今後、羽田空港国内線ターミナル駅・京急川崎駅・横浜駅の3駅について、4か国語表記の発車案内装置に更新を予定しています。



多機能トイレの新設

平成23年6月時点で、68駅に多機能トイレを設置しています。今後、各駅のトイレ改修を積極的に行い、安全・清潔はもとより、安心してご利用いただける機能的なトイレの設置を目指してまいります。

京急ファミリー鉄道フェスタ

「京急ファミリー鉄道フェスタ」を毎年5月に京急電鉄の車両工場である京急ファインテック久里浜事業所で開催しています。普段は一般開放していない車両工場を会場とすることで、一般のお客さまに京急電鉄の鉄道事業を理解していただき、また、安全・安心への取り組みについても紹介しています。

平成22年度は電車の運転台での記念撮影や信号機の操作体験などお客さま参加型のイベントや平成22年に引退した1000形のイベントなどを実施しました。



バス事業の取り組み

安全に対する基本方針

私たちは「輸送の安全確保が最も重要である」という認識を従業員一人ひとり自覚することが大切であると考え、安全に対する投資を引き続き積極的に行うなど、さらなる安全性の向上に努めなければならないと考えています。

また、お客さまに対して安全性の向上と同時に、質の高いサービスを提供し続けていくことが、お客さまの満足度を高め、輸送の安全確保にもつながっていくと考え行動しています。

※京浜急行バスグループおよび川崎鶴見臨港バスの輸送の安全に関する基本方針および「輸送の安全に関する目標および事故統計」は、各社Webサイト上でご覧いただけます。

■京浜急行バス
トップページ▶バスの取り組み▶運輸安全マネジメントに関する取り組み

■川崎鶴見臨港バス
トップページ▶そのほかのご案内▶運輸安全マネジメントに関する取り組み

ドライブレコーダーの導入

万一の事故発生やお客さまからいただいたご意見・ご要望に対して、その原因究明を正確かつ客観的に行うため、最新のドライブレコーダーを順次導入しています。平成23年9月末現在、京浜急行バスグループ乗合4社（貸切バスを含む）で906台を導入し、設置率は100%となりました。

速度を読み取り記録するデジタルタコグラフと連動したドライブレコーダーは、必要に応じて記録映像による状況の確認が行えるため、安全運転の改善指導や事故再発対策に活用しています。また乗務員の安全運転、エコドライブに対する意識向上にもつながっています。



バスジャックなどの緊急事態への対応

バスジャックや車内におけるテロ、不審物、不審者など、緊急事態における適切な対応とお客さまの安全確保を目的として、京急グループのバス事業では、バス業界の基準をもとに、さらに充実させた独自のマニュアルを制作・運用しています。

また、突発的事態発生時における対処能力の向上や発生現場における連携強化を図るために、警察や消防、自治体などと協力して訓練を行っています。



その他の取り組み

東日本大震災を受けての防災訓練を実施

ホテルグランパシフィック

ホテル グランパシフィック LE DAIBAでは、東日本大震災の1か月後から震災時の経験と反省を踏まえ、防災訓練を定期的に行っています。大きな揺れが発生しているという想定で、高層階に宿泊されているお客さまの安全を図り、迅速に情報を伝達して安全な場所まで誘導する訓練を行いました。

さらに、シャンデリアや食器・料理の落下など、ホテルおよびレストランなど特有の危険を想定し、お客さまに注意を呼び掛けて揺れが収まるまで待機し、安全が確認された後で低層階に誘導します。また、常にお客さまにお声掛けをし、落ち着いて行動していただくなど、本番さながらの緊張感の中で訓練を実施しました。



無事故優秀事業者として表彰を受ける

京急タクシーグループ

京急タクシーグループでは、日ごろから乗務員教育の一環として、安全運転に関する講習会などを実施しています。こうした取り組みにより、京急三崎タクシーが平成22年度事業用自動車事故防止コンクールにおいて、安全運転意識の高揚と交通事故防止に尽力した無事故優秀事業者として、神奈川県警本部長および関東運輸局神奈川運輸支局長から表彰を受けました。

今後もお客さまに安心してご利用いただけるよう、安全運転に徹し、交通事故防止に取り組んでいきます。

防災訓練・自衛消防隊

ホテルグランパシフィック 京急百貨店 京急油壺マリンパーク

ホテル グランパシフィック LE DAIBAでは、万一の有事の際には防災スタッフとして活躍する「自衛消防隊」を組織し、24時間365日のセキュリティ体制で防火、防災に努めています。防災スタッフは、消防法令で定める資格を有し、また心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）などの応急救護知識・技術を習得しています。この自衛消防隊は、毎年恒例となっている芝消防署主催の「自衛消防訓練審査会」にも参加しています。

京急百貨店でも、年2回、港南消防署の指導のもとで、全従業員参加の防災訓練を実施しています。緊急地震速報発令時の対応、初期消火から消防署への通報、お客さまの避難誘導まで実際の災害発生を想定して実施します。さらに港南消防署主催の「自衛消防隊訓練協議会」にも参加し、防火、防災に対する従業員の意識向上も図っています。

京急油壺マリンパークでは、平成22年12月16日に三浦市消防本部、消防団、横浜市消防局航空隊と合同で消防訓練を実施しました。この訓練は、従業員個々の防災意識を高め、来園者の安全確保を目的としています。今回は幼稚園の園児を含め、同施設内で火災などが発生したことを想定し、来園者の救助や消火訓練を実施したほか、ヘリコプターを使用した搬送訓練やキッズ消防車が登場し防火教育活動も行われました。

食品衛生研修会を実施

京急グループ

平成23年7月4日、食品に係る京急グループ24社・63名が参加して衛生コンサルタントによる食品衛生研修会を実施しました。研修内容は、食中毒予防のための手洗いやノロウイルスへの対応など、実際の状況を想定した具体的なもので、参加者は食品衛生の重要性を再認識しました。この研修で学んだことを各現場において十分に活かし、改めて「食の安全」確保に取り組んでいくための貴重な機会となりました。





◀「ノルエコ」ポスター

環境への取り組み

未来を生きる子どもたちのため、地球環境にやさしいことを。

鉄道は、1人を1km移動する際に排出するCO₂量が自家用車の約1/9であり、「環境にやさしい」交通手段です。私たちは、これからは「乗るだけでエコ」になる鉄道の魅力を社会に発信しながら、次世代を担う子どもたちにより良い沿線環境を引き継ぐため、かけがえのない自然を守っていきます。

環境マネジメント

京急グループ 環境基本方針

私たちは、あらゆる事業活動や社会貢献活動を通じて、地球環境の保全と環境負荷の低減に努め、持続的発展が可能な社会の形成に貢献します。

行動指針

- 私たちは、環境にやさしい公共交通機関を中心に、さらなる利便性の向上と魅力ある沿線価値の創造に努めます。
- 私たちは、資源やエネルギーの有効活用と、廃棄物の削減・再利用・再資源化への取り組みを通じ、環境負荷の低減に努めます。
- 私たちは、次世代を担う子ども達に、より良い沿線環境を引き継ぐため、沿線の豊かな自然との共生・保全に努めます。
- 私たちは、あらゆるステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、地域社会との協調・連携に努めます。
- 私たちは、環境に関する法令などを正しく理解・順守するとともに、啓発・教育活動を通じて、社員一人ひとりの環境意識の向上に努めます。

環境負荷データ

鉄道をはじめとする各事業活動を行うには、エネルギーや資源 (Input) が必要であり、また、その事業活動からは二酸化炭素 (CO₂) などの地球温暖化物質や廃棄物 (Output) が発生します。

京急電鉄では、事業活動における環境負荷を定量的に把握し、その低減に努めています。

京急電鉄 マテリアルフロー総括表

Input		Output	
水道	328,634m ³	CO ₂ 排出量	101,382t
電力	262,226,022kWh	電力	100,695t
都市ガス	146,774m ³	都市ガス	327t
プロパンガス	25,628m ³	プロパンガス	168t
灯油	19,661t	灯油	49t
軽油	10,563t	軽油	27t
ガソリン	49,775t	ガソリン	115t
		廃棄物排出量	11,193t
		廃棄物リサイクル量	8,328t
		廃棄物リサイクル率	74%

※参考：環境省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成23年3月改正)

鉄道事業の取り組み

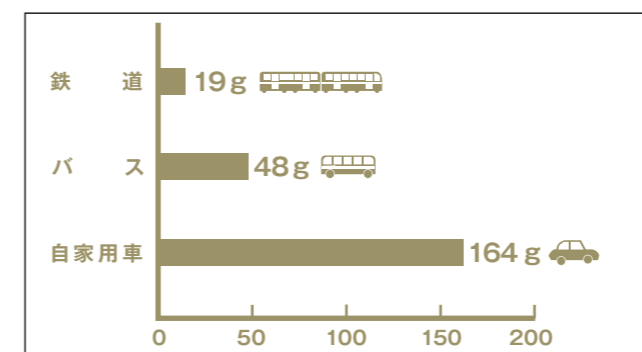
モーダルシフトへの取り組み

鉄道・バスなどの公共交通機関は、エネルギー使用量が少なく、また地球温暖化の原因となる二酸化炭素 (CO₂) の排出量も少ない、環境にやさしい乗り物です。

私たち公共交通を担うものができる最大の環境貢献は、お客さまから見た乗り物としての魅力を高めることにより、環境負荷の大きい自家用車から、公共交通機関に乗り換えていただくことで、環境負荷を軽減する“モーダルシフト”を推進することであると考えます。

自動車から、環境にやさしい鉄道・バスへ。地球温暖化を防いで環境を守るために、より多くのお客さまに公共交通機関をご利用していただくための取り組みを展開しています。

1人を1km運んだときのCO₂排出量



※交通エコロジー・モビリティ財団「運輸・交通と環境」(2010年版)から

弱冷房車の増設

京急電鉄では、従来8両編成の列車の3号車のみを弱冷房車として、エアコンの温度を高めめに設定していましたが、平成23年6月25日以降、新たに7号車についても弱冷房車とし、8両編成のうち2両が弱冷房車になりました。また4両編成と6両編成においても、新たに3号車を弱冷房車としています。これにより弱冷房車はこれまでの48両から175両と大幅に増加、お客さまの幅広いニーズに柔軟に対応できるようになったと同時に、省エネ・CO₂削減にも貢献しています。

駅構内の案内表示板をLED化

電力の消費量が少ないLEDを使用した案内表示板の採用を進めています。改良工事中の京急蒲田駅、羽田空港国際線ターミナル駅をはじめ、各駅で順次LED化を行っています。また電気時計や踏切警報機および色灯式信号機にも採用しています。



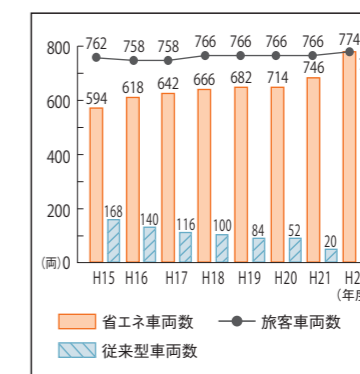
省エネルギー車両

従来の電車の電気ブレーキは、発生した電力を抵抗器で消費して熱として発散させていましたが、この電力を架線に戻し、他の列車の動力源として有効利用できる「電力回生ブレーキ」を備えた「界磁チョップ制御方式」を昭和53年度から、さらに電力回生効率を高めた「VVVF制御方式」を平成2年度から採用しています。

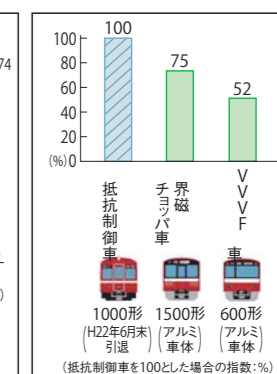
この電力回生ブレーキによる電力量の節減効果は、現在約30%に及んでいます。

また、車両の軽量化を図るため、昭和63年度以降「アルミ合金製」車体、平成19年以降「ステンレス製」車体にした車両を採用し、従来車に比べ約20%の軽量化が達成され、電力量の節減に大きな効果をもたらしています。

省エネ車両導入の推移



車種による運用エネルギーの違い



リサイクル可能な素材の積極的採用

環境負荷を軽減する車両の新造にあたっては、廃車・解体時にリサイクルが可能であること、またそのための分別解体の容易さなどを考慮に入れた、設計や材料選びをしているほか、リサイクル製品の積極活用に取り組んでいます。

京急電鉄の最新車両、新1000形では車両部品にリサイクル製品を使用する一方、断熱材のノンアスベスト化などの取り組みを実施しています。



“ノルエコ”「京急環境電車」の運行

毎年6月5日が「環境の日」であることから、京急グループでは6月を環境月間と位置づけています。この環境月間にちなんで環境啓発イベントとして、平成22年6月14日～7月31日の期間、京急の環境への取り組みを車内でご紹介する「京急環境電車」を運行しました。京急線の電車1編成を「京急環境電車」用デザインにラッピングし、車内においては平成21年度の1年間に実施した京急グループの環境への取り組みをわかりやすくご紹介したポスターを掲出しました。



バス事業の取り組み

ネットワークサービスの拡大

同じ自動車であっても、マイカーからバスへの転換はモーダルシフトをはじめ、環境負荷の軽減に大きく貢献します。京浜急行バスグループでは、空港リムジンバスやアクアライン高速バスなどのネットワークの拡充を進めることで利便性を高め、公共交通事業としてマイカーの利用を抑制する役割を担っています。

空港連絡バス

現在、羽田空港と各地を結ぶ40路線を運行し、ライド&フライトを推進しています。



国際線ターミナルへの乗り入れ

京浜急行バスグループでは、平成22年10月21日の国際線ターミナルオープンに合わせて乗り入れを開始しました。国際線定期便のフライトに合わせて深夜帯での乗り入れも行っているほか、JR蒲田駅～羽田空港を結ぶシャトルバスや武蔵小杉駅～羽田空港を結ぶリムジンバスの新設など、マイカーに比べCO₂排出量の少ないバスの利用促進に取り組んでいます。



コミュニティバスの運行

道幅が狭く、大型バスを乗り入れることが困難な交通不便地域での小型バスによる運行を拡充することにより、マイカー利用を抑制する効果が期待されています。平成22年度において京浜急行バスグループでは、横浜市金沢区で2路線の小型バスによる運行を開始しています。



省エネ車両・低公害車両の導入

ハイブリッドバス

ディーゼル車は、発進や加速時などエンジンを吹かすときに、最も多く窒素酸化物(NOx)や粒子状物質(PM)を排出します。ハイブリッドバスには、ディーゼルエンジンを発電のみに使用し、モーターを駆動力として使用するもの、発進や加速時にモーターでディーゼルエンジンの駆動力をアシストするものなどがあり、いずれも排出量を大幅に削減するとともに低燃費を実現しています。



アイドリングストップバス

都市部ではバスの走行環境が悪く、信号待ちや渋滞などにより、停車している時間がかなりの割合を占めます。停車中にエンジンを停止するだけでも、環境負荷の低減効果が大きいことから、京浜急行バスグループでは、停車時に自動的にエンジンが停止するアイドリングストップバスを、平成7年度から導入しています。

CNGバス

京浜急行バスグループでは、大気汚染の原因である窒素酸化物(NOx)や粒子状物質(PM)の排出量が大幅に少ない圧縮天然ガスを燃料とするCNGバスを平成14年度から導入しています。

最新排ガス適応車両

京浜急行バスグループ、川崎鶴見臨港バスでは、自動車のNOx・PM法、東京都環境確保条例などに対応するため、従来から最新の環境対策を施した車両を導入していますが、平成22年9月の新車購入時からは、世界でもっとも厳しいとされる基準「平成21年(ポスト新長期)排出ガス規制」に適合した車両を導入しています。また、改正省エネ法に定められた「平成27年度重量車燃費基準」をクリアした低燃費車両も積極的に導入し、排出ガスの削減に努めています。

省エネ運転の推進

京浜急行バスグループ、川崎鶴見臨港バスでは、省エネ車両・低公害車両の導入とあわせて、省エネ運転の推進に取り組んでいます。アイドリングストップの徹底をはじめ、バスの速度やエンジン回転数を記録するデジタルタコグラフを導入し、そのデータを分析し、乗務員教育に生かすなど、乗務員のエコドライブに対する意識向上を図っています。

その他の取り組み

EV(電気自動車)タクシーを運行

京急中央交通

京急中央交通は、平成23年2月からガソリンを使わずCO₂を排出しないEVタクシーを3台導入しました。横須賀市が実施している「EVタクシー導入モデル事業」に参画し、横須賀市が購入したEV(電気自動車)を2年間借り受けたものです。多くのお客さまにEVタクシーにご乗車いただくことで、EVの普及促進に貢献していきたいと考えています。



衣類でecoキャンペーン

京急ショッピングセンター

ウイングくみり浜では、平成22年9月、お客さまがエコ活動に気軽に参加できる「衣類でecoキャンペーン」を実施しました。これは、衣料品をご購入いただいたお客さまを対象に、不要になった衣類の引き取りを行うとともに、ウイングくみり浜で使用できるギフト券をプレゼントしました。回収した衣類は、リサイクル商品として軍手・ウエスなどに生まれ変わります。



三浦メダカの里親制度

京急油壺マリンパーク

京急油壺マリンパークでは、「三浦メダカの里親制度」として職員が地元の小学校へ出向き、神奈川県三浦半島の固有種である三浦メダカの飼育方法をアドバイスしながら、地元で生息する希少な生物の繁殖と種の保存について学ぶ教育普及活動を行っています。平成22年度は、三浦市および横須賀市内の小学校19校にご参加いただきました。この里親制度で提供している三浦メダカは、ニホンアカガエルと同様に平成22年7月にオープンした新施設「かわうその森」で保護・繁殖を行っています。



「CO₂吸収証書」の交付

京急百貨店

京急百貨店では、横浜市の水源地の水源地である山梨県道志村の水源地約10haを「京急百貨店はぐくみの森」として保護活動を行っています。平成22年10月から11月にかけて、協定に基づいた約3haの整備(間伐、枝打)が実施されました。その結果、山梨県「やまなしの森づくり・CO₂吸収証書制度」により1年間のCO₂吸収量は約40tと認証され、「CO₂吸収証書」が交付されました。



「京急あきたフェア2010」を開催

京急グループ

京急グループは、秋田県および全国農業協同組合連合会秋田県本部と共同で毎年「京急あきたフェア」を実施しています。自然豊かで農業も盛んな秋田をご紹介します。一人でも多くの方にその魅力に触れていただくことで、食物を育てることの大変さや環境配慮の大切さを考える機会を提供したいと考えています。

京急百貨店、京急ストア、もともちユニオンの各店舗、ホテル グランパシフィック LE DAIBAでは「秋田」をテーマにした物産展や名産品の販売、秋田県の食材を使用したレストランフェアなどさまざまな催しを展開。フェア期間中は京急グループの各施設に「ミスあきたこまち」や「なまはげ」が登場するPRイベントで盛り上げました。

さらに平成22年度のフェアでは、「京急オリジナル米袋入り秋田県産あきたこまち『あきたecoらいす』」の特別販売も実施しました。



社会貢献の取り組み

生活者の目の高さで、 もっと社会に貢献できることを。

私たち京急グループのあらゆる事業は、社会や地域住民の方などさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションや信頼関係なしには成り立ちません。私たちは、企業視点ではなく、お客さまや地域、社員などステークホルダーの視点から発想した社会貢献の取り組みを続けていきます。

お客さまとのコミュニケーション

京急ご案内センター

京急グループでは、京急をより身近に感じていただけるよう、京急ご案内センターを開設しています。京急線の時刻や運賃、お忘れ物のご案内はもちろん、京急グループのサービスや施設に関するお問い合わせやご意見・ご要望を受け付けています。

■京急ご案内センター
TEL 03-5789-8686 または TEL 045-441-0999
受付時間:平日 7:30~21:00 土・日・祝日 9:00~17:00

■川崎鶴見臨港バスのご案内専用番号
TEL 044-245-8686
受付時間:平日 9:00~19:00 土・日・祝日 9:00~17:00

主な受付内容

- 川崎鶴見臨港バスの時刻、運賃のお問い合わせ
- バス乗り場、路線に関するお問い合わせ
- 川崎鶴見臨港バスグループの各施設についてのお問い合わせ

お客さまの声をサービスに活かす取り組み

電車・バスをはじめとした京急グループのサービスを、より便利に、より快適にご利用いただけるよう、京急グループでは、お客さまの声をサービス改善に活かす取り組みを行っています。京急ご案内センターに、毎日寄せられるお客さまのご意見・ご

要望は、データベース化され、分析をしたうえで、担当部署・各グループ会社へ報告されます。京急ご案内センターと担当部署・各グループ会社が連携し、改善を目指すことで、お客さまにより良いサービスを提供できるように努めています。

平成22年度のお客さまの声を活かした具体的な取り組み

■お客さまの声に基づく改善事例

お客さまの声 電話で、電車の運行情報が知りたい。

取り組み

京急ご案内センターでは電話回線が混み合っている時や、センター営業時間外に電話でお問い合わせをいただいたお客さまに、運行情報を自動音声ガイダンスでご案内できるようにしました(平成23年3月から)。

株主・投資家とのコミュニケーション

さまざまなIR活動

株主総会には、毎年大勢の株主の皆さまにご出席いただき、1年間の事業内容を、ビジュアルを用いてわかりやすく報告しています。また、丁寧な質疑応答を通し、開かれた株主総会を実践しています。さらに京急グループの経営方針や将来展望、株式や株主優待制度などを、より多くの皆さまにご理解いただき、京急グループをご支援いただくため、機関投資家・個人投資家向けの会社説明会を毎年開催しています。平成22年度は11月30日にタレントの毒蝮三太夫氏による講演に続き、京急電鉄社長から「京急グループの事業について」、同総務部長から「当社株式と株主優待について」それぞれご説明いたしました。

また、当社の事業をより深く理解していただくため、株主の皆さまにグループ施設などを見学していただくプレミアムイベントを開催し

ています。ホテル グランパシフィック LE DAIBAでは「シェフに聞く 食の安全と厨房体験」を開催し、食の安全に対する考え方や取り組みを説明の後、オムレツ作りに挑戦していただきました。3月6日には、京急油壺マリンパークにて、株主限定のプレミアムイベント「磯の生物観察会とサイエンスカフェ」を開催。水族館の裏側見学会などを通じ、マリンパークが行っている希少生物保護や環境活動についてご説明しました。さらに京急百貨店においても、株主の方を対象とした「店舗の裏側見学ツアー」を実施しています。



従業員とのコミュニケーション

人材の多様性の尊重

京急グループでは、企業の社会的責任を果たすとともに、地域社会との協調・連携に努めるよう「障がい者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、特例子会社および関係会社の特例認定を受け、障がい者の雇用促進と就業機会の拡大を進めています。

また、女性従業員の採用にも積極的で、駅係員や乗務員(運転士・車掌)など、女性従業員のための就業環境を整備し、同時に仕事と育児の両立を支援する制度の拡充や職場の雰囲気づくりを推進しています。さらに平成13年から定年退職者の再雇用制度を導入し、シニアスタッフとして定年をむかえた社員を再雇用。本人の希望を取り入れることにより、働きやすい環境づくりに力を入れています。



社会とのコミュニケーション

地元小学生による「龍馬絵画展」

京急電鉄は、品川区および品川龍馬会と協力して、平成22年7月~11月に京急線立会川駅構内において「地元小学生による龍馬絵画展」を開催しました。

立会川駅周辺は、若さ坂本龍馬が土佐藩の命を受けて警備に付いた浜川砲台跡がある「龍馬ゆかりの地」で、駅前の北浜川児童遊園には「龍馬像」も立っています。そこで、坂本龍馬にちなんだ絵画を小学生に描いてもらい立会川駅構内に展示することで、地域の活性化にも繋がるのではないかと考えました。期間中、立会川駅構内はこども美術館のようでした。



京急蒲田駅 駅長が小児病棟を訪問

平成23年3月、京急グループの地域貢献活動の一環として、京急蒲田駅の田端駅長が地元である東邦大学医療センター大森病院の小児病棟を訪問しました。京急電鉄クイズや撮影会などなかなか時間を過ごし、病気と一生懸命に闘う子どもたちに笑顔を届けることができました。



安全で健全な職場環境の整備

全国安全週間の期間中に、「京急グループ安全大会」を開催しているほか、安全衛生関係の講演会や研修会を実施し、従業員の安全・衛生意識の啓発に努めています。また、「京急グループ安全大会」の開催日にあわせ、無事故・無災害団体の表彰を行うなど意識の向上を図っています。

さらに、定期健康診断実施時に成人病検診もあわせて実施し、従業員の健康管理に努めています。また、メンタルヘルス対策として週一回、京急グループ診療所に精神科専門医を配置しているほか、相談窓口(電話による相談も可)の設置など、従業員が相談しやすい体制を整えています。

「アートによるまちの再生へ」 高架下を活用し、地域再生をサポート

日ノ出町駅から黄金町駅のエリアでは、かつては、違法営業店舗による生活環境の悪化が深刻な問題となっていました。地元・行政・警察が三位一体となって地域とアートの共存による地域再生に取り組んでいます。

京急電鉄では、この地域再生の活動を後押しするため、同エリアの高架下を活用し、平成20年に文化芸術施設「日ノ出スタジオ」・「黄金スタジオ」の整備を行い、平成23年8月には、「黄金町バザール2011」に合わせて、新たに2つのスタジオ施設をオープンしました。

これらのスタジオ施設は、若手アーティストの作品展示スペースや、地元の方々の交流場所として活用され、地域の活性化に貢献しています。



三浦国際市民マラソンをサポート

京急グループが毎年特別協賛している「三浦国際市民マラソン」の第29回が、平成23年3月6日に開催され、京急グループ各社がさまざまなサポート活動を行いました。京急ストア、ユニオネックスなどの流通企業が臨時の仮設店舗をオープンしたほか、グループ会社社員がカイロの配布を実施。さらに10キロレースのスターターと表彰式のプレゼンターを京急電鉄の役員が務めました。



CSRマネジメント体制の構築

京急は、グループ全体が協力して社会的責任を果たし、豊かな都市生活の基盤づくりを通じて社会に貢献できるよう、CSR推進体制の充実に注力しています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

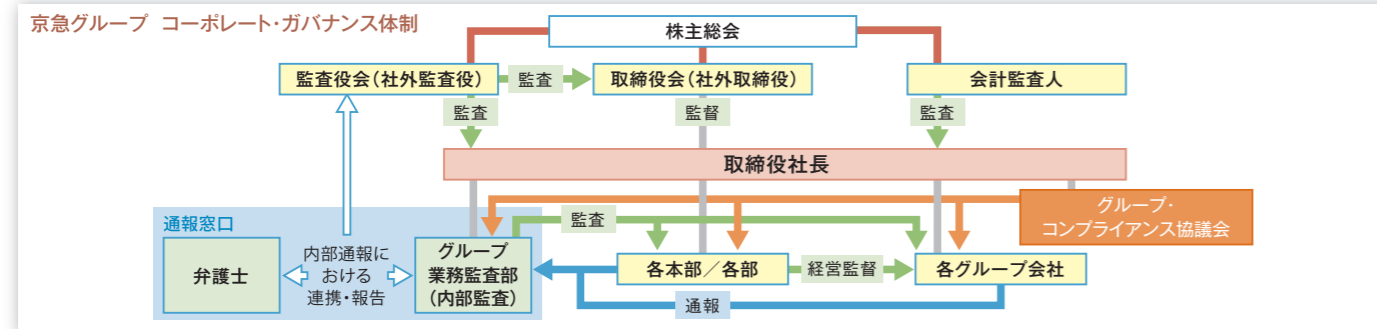
京急グループは、法令を順守し、経営の透明性・健全性を確保したうえで、経営環境の変化に対応し、適時かつ適切に意思決定と業務執行を行うことにより、企業価値の向上を目指しております。

京急電鉄は、現状において、適時かつ適切に取締役会などの運営を行い、迅速かつ適切な意思決定ができていますと、従前どおり監査役制度を採用しております。取締役会は、社外取締役2名を含む17名から構成され、原則毎月1回開催し、法令・定款で定められた事項や経営上の重要事項の決議および報告ならびに業務執行の監督を行っております。また、常勤取締役および常勤監査役で構成する常務会は、原則毎月3回開催し、取締役会に付議する事項はもとより、詳細な業務に関する事項の決議および報告を行っております。さらに、監査役会は、社外監査役4名を含む5名から構成され、年6回開催し、各監査役の監査状況の報告および監査意見の形成を行っております。各監査役は、経営状況の監査や取締役の職務遂行の適法性などの監査を行うほか、取締役会や常務会などの重要な会議に出席し、必要に応じて意見陳述を行っております。このほか、代

表取締役と監査役との間で職務遂行や監査に関し定期的に会合を行い、当社の現状における課題や今後の監査方針などについて意見交換を行っております。なお、取締役の事業年度の経営責任を明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築することができるようにするため、取締役の任期は1年としています。

京急電鉄は、公共交通機関を中心に事業を行う当社の社会的責任を踏まえ、短期的な業績に限らず、事業継続の大前提となるサービス・商品の安全確保など中長期にわたる企業価値向上を実現するため、取締役会においては当社グループの事業や戦略に精通する取締役を中心とした体制をとっています。また、社外役員が独立した立場から経営に参画することで、さらに透明性、客観性の高いコーポレート・ガバナンス体制を推進できることから、上記に記載した体制をとっています。

グループ全体においては、グループとしての経営方針の徹底と経営情報の共有化を図るため、京急グループ社長会を定期的に開催し、グループ統治機能の強化に努めています。



危機管理体制

リスクマネジメントの基本的な考え方

公共交通機関を中心に事業を行う当社の社会的責任を踏まえ、サービス・商品の安全・安心を確保するため、京急グループ危機管理規程に基づき、平時から安全対策などに積極的に取り組むとともに、万一の事故や災害などの発生に備え、各種対応方法を整備します。また、危機発生時に、グループ全体の情報を集約・共有することにより、危機のすみやかな収拾と再発防止を図ります。

さらに、グループ全体のリスク情報を管理するため、各部門は当社事業に係るリスク情報を把握し、損失の最小化を図るための対策を講じます。またグループ業務監査部は、各部門および各グループ会社のリスク管理体制についての監査を行います。

各部門が把握するリスク情報については、グループ全体のリスク情報として集約し、グループ・コンプライアンス協議会において、情報の共有化を図っています。

危機管理委員会・危機管理責任者

グループ全体の危機に対応する事項を検討・立案する「危機管理委員会」を設置し、平時から安全対策などに積極的に取り組んでいます。また、京急電鉄の各部長とグループ会社社長を「危機管理責任者」とし、危機管理委員会の方針および指示に従い、部署・自社における具体策の立案・実行・見直しを行っています。

危機対策総本部

重大な事件、事故、不祥事、自然災害、疫病、テロの発生など、グループ全体での対応が必要な場合には、京急電鉄の社長を本部長とした「危機対策総本部」を設置し、迅速かつ正確な事実確認と情報公開を行うとともに、ステークホルダーの損害を最小限にとどめるための活動を行います。

コンプライアンス

コンプライアンスの基本的な考え方

京急グループは、法令や社会規範に則り、京急グループを取り巻くすべての皆さまからの信頼に応え、企業市民として期待される社会的責任を果たすために、「京急グループ・コンプライアンス指針」、「京急グループ・役員および従業員行動基準」を策定しています。

■京急グループ・コンプライアンス指針■

- 1.お客さまに対して**
お客さまの豊かな生活のために、安全で、満足を得られるサービス・商品の提供に努めます。
- 2.株主・投資家に対して**
投資に対する期待に応えるために、長期的・安定的な企業価値の増大を目指した事業活動と、適時・適切な会社情報の開示に努めます。
- 3.地域・社会・環境に対して**
よりよい社会の形成に貢献するために、地域社会との協調・連携に努めるとともに、地球環境を守るために、環境への負荷軽減に努めます。
- 4.取引先に対して**
相互の繁栄のために、合理的な商慣習に則った、公正・透明な取引に努めます。
- 5.従業員に対して**
従業員が安心して意欲的に働くことができるために、個人の尊重と、良好な職場環境の維持・向上に努めます。

■京急グループ・役員および従業員行動基準■

- 1.お客さまに対して**
(1) 私たちは、常にお客さまの安全を最優先に考え、サービスや商品を提供します。
(2) 私たちは、お客さまのニーズを把握するとともに、お客さまの声を活かし、満足度の高いサービスや商品の提供に努めます。
- 2.株主・投資家に対して**
(1) 私たちは、株主・投資家などから正しい評価を得られるよう、適時・適切な会社情報の開示に努めます。
(2) 私たちは、業務上知りえた内部情報を利用して疑惑や不信を招く株式の売買等を行いません。
- 3.地域に対して**
(1) 私たちは、地域に密着した企業グループの一員であることを自覚し、地域の発展のために活動します。
(2) 私たちは、明るく住みやすい社会となることを目指して、地域社会への貢献に努めます。
- 4.社会に対して**
(1) 私たちは、市民社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力との関係を断ち、毅然とした態度で対応します。
(2) 私たちは、社会的に許されない政治献金や寄付、社会から誤解や不信を抱かれるような接待や贈答を行わず、また、受けません。
- 5.環境に対して**
(1) 私たちは、地球環境を守る担い手として、環境への負荷軽減、資源の有効活用に努めます。
(2) 私たちは、環境の保全に配慮し、自然環境と調和した事業活動に努めます。
- 6.取引先に対して**
(1) 私たちは、不当な取引制限や、不正な方法による取引は行いません。
(2) 私たちは、取引先との間で公正な取引関係を築き、会社と取引先の双方にとって最適な取引を行うよう努めます。
- 7.会社に対して**
(1) 私たちは、会社の財産（知的財産、企業ブランドを含む。）を大切に扱い、その価値の維持・増大に努めます。
(2) 私たちは、会社の重要情報およびお客さまや他社の機密情報を厳重に取り扱い、漏洩の防止に努めます。
- 8.役員・従業員相互の関係**
(1) 私たちは、職場における事故の防止に全力を尽くし、安全で衛生的な職場環境の整備に努めます。
(2) 私たちは、個人の人格と人権を尊重し、国籍・性別・宗教などによる差別やセクシュアルハラスメントなどの嫌がらせのない、明るく活気のある職場づくりに努めます。

個人情報保護方針

京急グループは、個人情報保護に対する社会的要請に応えるべく、法令などを順守するとともに、個人情報保護に関する取り組み姿勢を明確にするため、プライバシーポリシーを定め、忠実に順守し実行します。

※個人情報保護方針の全文は、京急電鉄のWebサイトをご覧ください。

■京急電鉄
トップページ→京急の個人情報取り扱いについて

コンプライアンスに関する教育・研修

京急グループの全従業員が、コンプライアンスに対する理解を深め、一人ひとりが正しく行動できるよう、新入社員から管理・監督職まで階層別に研修を実施しています。また、「京急グループ・コンプライアンス指針」や「京急グループ・役員および従業員行動基準」をカードサイズに印刷した「コンプライアンスカード」を、全役員および従業員が携帯しており、常にその趣旨を意識し、行動できるようにしています。

階層別研修実施内訳

対象者	回数	延参加人数
新入社員	4回	458名
一般社員	4回	58名
昇格者	10回	178名
乗務員転籍者	2回	34名

※コンプライアンス協議会は除く

内部通報制度（内部通報窓口）

京急グループでは、所属会社や雇用形態を問わず、すべての従業員が利用できるコンプライアンス窓口を社内と社外の2か所に設置し、コンプライアンス違反に関する通報を受け付けています。

また、「内部通報規程」を整備し、通報者の保護など公正かつ適正な窓口の運営を徹底しています。さらに、コンプライアンスカードに窓口の連絡先を記載するなど、グループの全従業員に周知し、窓口の実効性を確保することで、コンプライアンス違反情報を早期に察知し、違反を防ぐ体制を構築しています。